

▶ (仮称)北海道石狩市洋上風力発電事業に係る計画段階環境配慮書 審議結果概要(1回目審議:令和5年11月7日開催)

項目	No.	委員名	区分	質問・意見等の概要		事業者回答の概要
事業計画	1	坪田会長	質問	複合的・累積的影響を検討する上での、他事業者との調整について	既に稼働中や計画中の事業も考慮した複合的、累積的な検討について、具体的な他事業者との調整や既に稼働中又は計画中の事業とどのように設置場所をすみ分けるのか、そのような調整をいかにして行われるのかが気になった。わかる範囲でお答えいただきたい。	累積的影響につきましては、まだ稼働前ですが、石狩湾新港沖には風車が14基並んでおり、今後、事後調査を実施すると思うのですが、この事業が加わることでどのような環境影響があるのかということ、今後、具体的に予測、評価を行なおうと考えています。 また、石狩湾沖の有望区域につきましては、配慮書段階まで進めている事業者の全てが事業化されるという認識を持ってはませんが、他事業者の進捗を見ながら、具体化される事業については、可能な限り、計画を反映した予測、評価を行いたいと考えています。
景観	2	奈良委員	質問	手稲山山頂における眺望点の追加について	札幌市内の景観について、本配慮書には手稲山からの眺望ということが記載されていないため、今後、加えていただきたい。	本配慮書では調査地域を垂直見込角(1度)により事業実施想定区域より17kmの範囲と設定させていただいていましたが、現在、見えること自体が影響だという考えが広まってきていることもあり、札幌市内、主要な眺望点を広げながら丁寧に対応していきたいと考えています。
	3	渡部副会長	質問	これまでに経験のないような大規模な風力発電機群が回転することによる影響への配慮について	今回の事業計画の中で、発電機の大きさが非常に大きいというのが大きな特徴だと思う。直径が220mから270mあるローターが回転し、単機出力も15MWから20MWという計画である。これまで石狩湾沖の洋上風力発電所については、複数件の類似の配慮書の審議を行ってきたが、本事業は世界最大級の発電機の設置が計画されており、国内では今まで経験がない事業を計画しているということを強く認識していただき、様々な角度から検討していただきたい。その際、今まで経験のないような大きなものが遠方で回転することを考えると、それに対する十分な配慮が必要であると思うが、そのことについて、どのように考えているのかお聞かせ願いたい。	ご指摘のとおり絶対的な大きさが変わってくると思っています。ですから、フォトモンタージュ等につきましても、俯瞰する位置や「あいろーど厚田」ですと、やや上から見た景観になるかと思えます。 一方、石狩湾新港沖における8MW、高さ200m級の風車を超えて100mくらい高くなるため、海辺にあっても圧迫を受けるようなイメージになるなど、そういったことが生じてくる可能性は十分考えています。特に、フォトモンタージュ、シミュレーションの段階で丁寧な景観への配慮を検討していく必要があると考えています。
	4	渡部副会長	意見	海外事例の収集について	一方で、世界を見ると300m級の風車も稼働していることから、そのような海外の事例を収集するというのも含めて、総合的な判断、そして、日本では初めての経験をやろうとしているというチャレンジングなところもしっかり配慮するような環境影響評価の関係図書を作成していただければと思うので、ぜひ慎重な検討をお願いしたい。	
	5	北岡委員	意見	集合体として視覚的なボリューム面での景観評価	景観について、今回、最大で六十数基の建設が想定される中、複数、集合体として、視覚的なボリュームといった面での評価が必要なのではないかと思う。規模が非常に大きいということであれば、垂直見込角の基準がそのまま当てはめられるのかというのは疑問なところである。	ご指摘のとおり、石狩湾新港沖の14基を見ても、ボリュームとして景観要素になっていると実感しています。一基一基の高さではなく、まとまりを持った景観への評価も検討していきたいと考えています。
	6	北岡委員	意見	シークエンス景観としての評価の重要性について	最大で六十何基が連続して並ぶようなことが想定されているが、石狩湾に沿った海岸線というのは、ドライブのルートとしても利用されていると思う。シークエンス景観としての捉え方での評価も今後は必要になるのではないかと考える。	海岸線の道路から海を見るということで、この付近は非常に重要な景観になっていると思いますので、道路からの見え方なども含めて配置計画を検討していきたいと考えています。

項目	No.	委員名	区分	質問・意見等の概要		事業者回答の概要
動物	7	河合委員	意見	コウモリ類への影響及びバッドストライクについて	<p>生息するコウモリ類については、文献調査が十分と言えない。また、バッドストライクの可能性があるかと予測しながら、陸域を主な生息環境とするコウモリ類には影響は生じないと予測しているなど、矛盾がある。</p> <p>隣接する札幌市、小樽市の現時点での生体状況を加味すれば、現時点で北海道に生息する20種は全ての季節に海上を利用すると予想し、今後、コウモリ類に関わる評価手続を行うべきであり、また、具体的な環境保全対策を講じることができる予測を行えるように、今後の手続を進めるべきと考える。</p>	<p>ご指摘のとおり、コウモリ類については、配慮書の段階で専門家ヒアリングを受けていないところが、一つ、我々の足りていないところであったと思っております。</p> <p>方法書段階以降、河合委員を含め、様々な方にご意見を伺いながら、まず、よく分かっていないことを可能な限り明らかにできるよう実態を把握し、適切に対応して行きたいと考えています。</p>
	8	坪田会長	意見	バードストライクについて	<p>バードストライクは必ず発生すると思うので、最小限に影響を抑えるということで、ぜひ十分な影響調査を行っていただきたい。</p>	
	9	坪田会長	意見	渡り鳥について	<p>渡り鳥については、その渡りの季節に適切なルートを選んでしっかりと調査しないと、実態は分からないと思う。特に、天売島からやって来るウトウは希少種にもなっていると思うので、ぜひ、適切な時期に適切な方法で調査を行っていただきたいということと、専門家のご意見を聞いた上で調査をしていただきたいと思う。</p>	
	10	渡部副会長	意見 質問	大規模なローターの回転が及ぼすバードストライク・バッドストライクの影響について	<p>バードストライク、バッドストライクに関して、ローターが大きいということが今回の配慮書に記載されていないが、ローターが大きいこと、たくさんあることを意識して配慮していただく必要があると思っている。</p> <p>8MW級のもので1分間に13回転回ると聞いているが、今回想定している20MW級のもので鳥類の飛ぶルート上にあつたら、一つクリアしても、また次にまたあつたとなると、パニックになるのではないかとと思う。</p> <p>一方で、事業者説明資料の25ページに、適切な風車の配置や、稼働などと記載されている。この「稼働」というのは、例えば、鳥が飛んでくるときに止めるとか、そういったことを想定されているのか、ここは少し曖昧な記述に感じたが、どういう意味があるのか説明いただきたい。</p>	<p>「稼働」につきましては、鳥類の渡りのピークがこの時期というものがあるものに対しては、運転時間で考慮する必要があると考えている。</p> <p>鳥類をはじめとした生物にとって非常に重要な時間であったり、昼であったり、夜であったり、朝方、夕方など、そういった利用実態を把握して、少しでも影響を回避できるような運転方法を検討できればと思っている。</p>
植物	11	石川委員	意見	藻場への影響について	<p>藻場については、本配慮書において影響なしという報告があつた。洋上風力発電機を建てたことにより、藻場の再生に貢献したという報告も海外ではよく聞かれている。建設後になると思うが、藻場の再生における影響をぜひウオッチしていただければと思う。</p>	<p>ご指摘のとおり、風車の基礎などは、海藻、藻場が再生できるなど、そういった知見や報告があります。そのようなことを含めて、方法書段階以降において整理していきたい。</p>